

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

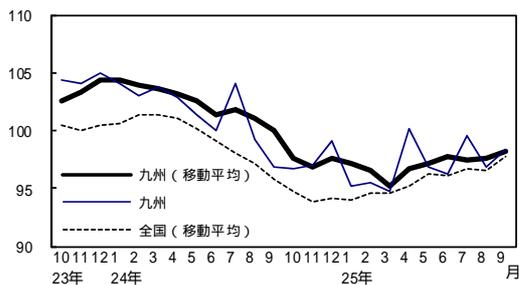
	前回(平成25年8月)	今回(平成25年11月)
住宅建設	増加	大幅に増加

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

7～9月期には、輸送機械は、国内向け軽・小型乗用車が好調だったこと等から増加した。電子部品・デバイス、半導体集積回路がデジタルカメラ等の需要低迷により低調だったこと等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、スマートフォン向け半導体製造装置が受注増となったこと等から増加した。食料品・たばこは、清涼飲料やビール類で増加した。化学・石油石炭製品は、一部工場の定期修理等もあって低下した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	2.5	1.4	5.9	2.6	3.4
電子部品・デバイス	12.3	4.5	11.0	4.5	6.0	14.4
はん用・生産用・業務用機械	11.2	3.5	7.6	0.5	1.6	3.1
食料品	9.6	1.4	3.8	3.6	2.1	3.2
化学・石油石炭製品	8.3	5.4	9.3	3.2	8.9	2.0
鉱工業	100.0	2.7	0.6	3.4	2.6	1.5

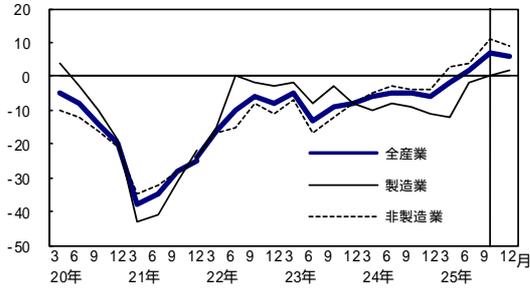
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

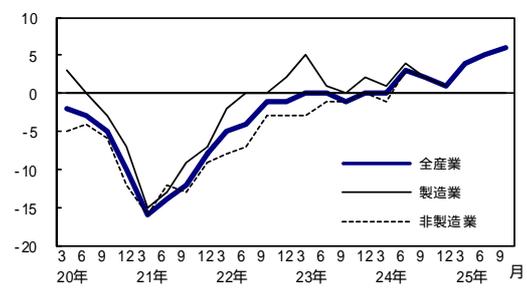
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



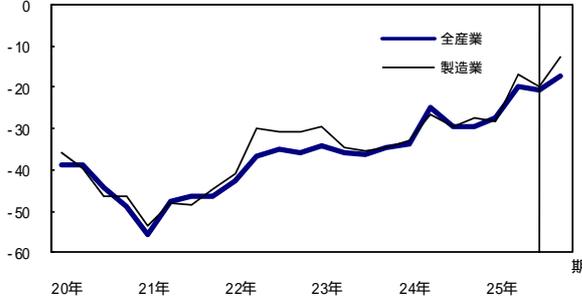
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



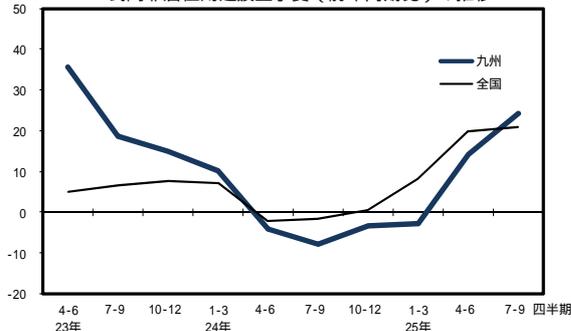
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「1、2か月前から半導体の製造装置の受注が急激に増えてきている。大きくバランスを欠いて仕事量が増えたため、人が足りず残業で対応しているが、コストの面で大変厳しい状況である(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度概
全産業	2.9	22.9 (1.7)
製造業	0.7	3.3 (3.2)
非製造業	4.0	32.7 (1.1)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.4%減、8月は同0.3%増、9月は同0.7%増となった。

大型小売店販売額

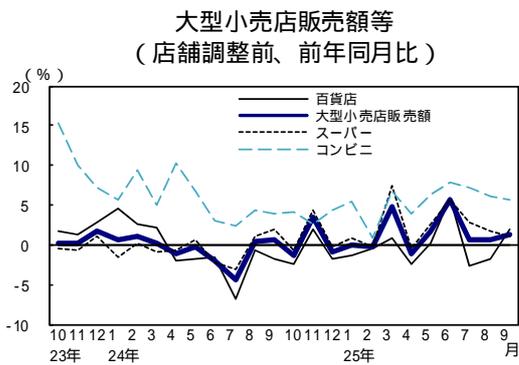
百貨店は、7月は、主力の衣料品や飲食料品の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。8月は、中旬までの気温高で夏物衣料に動きがみられたものの、秋物衣料の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。9月は、主力の衣料品や飲食料品など、全般的に動きがよかったこと等から前年を上回った。

スーパーは、衣料品の動きが鈍かったものの、主力の飲食料品などの動きがよかったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、50.4となり前月より0.4ポイント低下した。

「従来、10月は客足や売上が増える時期だが、台風の影響で売上が前年度より落ち、なかなか上がらない (高級レストラン)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



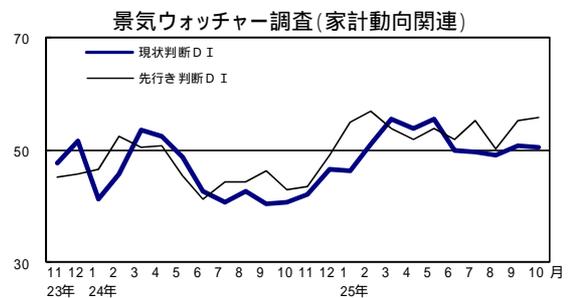
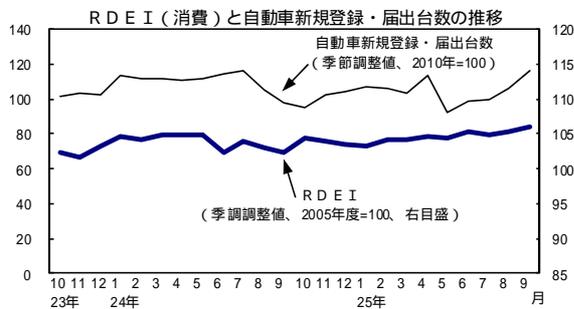
	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.6	0.4	0.3	0.7
大型小売店(*2)	0.9	0.7	0.7	1.4
百貨店(*2)	1.0	2.6	1.8	2.0
スーパー(*2)	1.9	2.8	1.8	1.1
コンビニ(*2)	6.3	7.1	6.1	5.6
乗用車(*3)	1.0	12.0	2.3	19.8
(季節調整値)(*3)	5.8	1.3	6.3	9.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

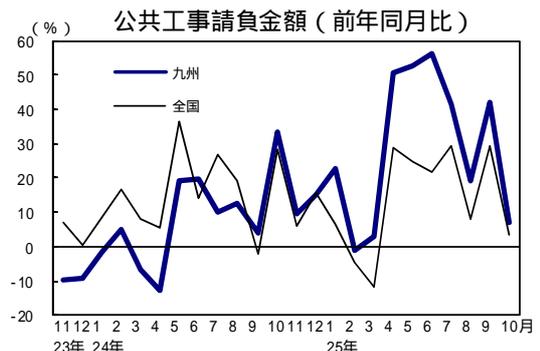
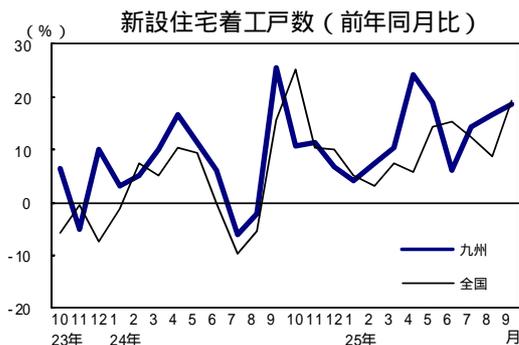
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

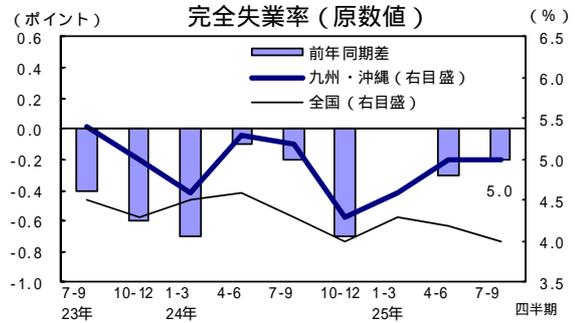
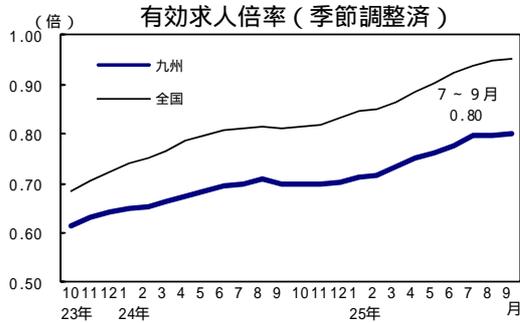


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

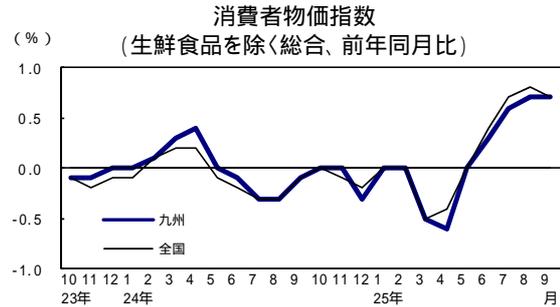
「消費税増税前の駆け込み需要による受注増により、大手住宅メーカーから事務系の派遣依頼が増加している (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	211	162	185	183	67
(前年比)	1.0	23.9	6.6	7.1	30.2
負債総額	500	235	319	254	124
(前年比)	87.2	33.7	42.5	36.3	45.8



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・おせちの販売予約が2～3割伸びている。価格帯も昨年の1万円台から2万円台上がっている (経営コンサルタント)

<先行き>

・消費税増税前の駆け込み需要がこれからみられる。また、天気長期予報では寒い冬の予想が出ており、防寒商品への需要増が期待できる (その他小売 [ショッピングセンター])

